

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

() 月 日 曜日

動物のやさしさを知る

栗野小学校 六年 西 愛子

この物語は、シカをしとめようとした吉助
おじさんと主人公「ぼく」が、かりゅうどか
らのがれてきた片耳の大シカとの出会いから
はじまります。片耳の大シカを何とか手に入
れようと吉助おじさんの仲間の次郎吉もいっ
しょに、りょうにでますが、裏をかかれ、冬
の激しい風雨の中で、主人公の「ぼく」は、
寒さと恐ろしさでがたがたふるえ、眠りそう
になります。

「さあ、服をぬいで、そいつをぎゅっとしぼ
ってそれで互いに体をこすりあうのだ。」
しかし、冷え切った体は温まらず、このま
ま死んでしまいかもしれない。すると、近く
にシカとサルの群れが互いに体をこすりつけ
ながら横になっ、ていました。その中、夢中で
その群れに飛びこむのですが、シカたちはさ
わぎもせず、そのままその温かさでぬわって
しまします。三人が目覚めると、シカたち

No. 1

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

月 日 曜日

は「ぼく」たちに目もくれず、歩き出してい
 つてしまいます。その先頭に立っていたのは
 あの片耳の大シカだ。たのです。
 「おお、あいつだ。あの片耳だ」
 次郎吉は、銃を構えて撃とうとします。
 「あっ！よしなよ、次郎吉さん。あの片耳の
 大シカのためには、今日は命が助かったのじ
 ゃないですか」
 私はこの言葉に心を打たれました。

私は、この本を読んで、大シカは賢くて、
 強くて、優しいんだなと思いました。かりや
 うどのやり口を覚え、裏をかき、仲間を守り
 自分を狙っていた人間が死になうてい
 た時に攻撃もせず、助けてあげていたからで
 す。

一番印象に残った場面は、最後に、登場人
 物、次郎吉が大シカを撃とうとした時、主人
 公、「ぼく」が助けてもらったのだから、や
 めようと言ったところでした。なぜなら、殺
 そうと狙っていた相手に助けてもらったから

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

